

神戸を駆ける熱き風



## 阪神タイガース 「ずうっと ずうっと」

浦嶋克己 (WAKKUN) (イラストレーター)

風船キャンデー一本で朝から晩まで  
野球して遊んだ夏休み  
人数足らんかったら三角野球  
狭かったらワンパン野球  
三人やったら、はさみん  
二人やったらキャッチボール  
一人やっても壁野球

子どもの頃のボクたちはとにかく野球が大好きでランニングシャツと半ズボンのでたちで夏休み中、ずっと野球してた。そしてその気分はすっかり大好きなタイガースサインやった。ボクはソロムコ、ボク並木、熱血村山キレ味の小山等、それぞれひいきの選手になった気持ちで毎日ボールを追っかけてたんや。

やがてバースや掛布、真弓に岡田そして今は新庄、藪と選手の名前はどんどん変っていったけれど、応援する気持ちは子どもの頃から今まで、ずうっとずうっと変ってへんで。

優勝という二文字を夢見ながらボクらタイガースファンは今年も一生懸命心の底から応援するんや！

本気を出すんやタイガース！  
ボクらの夢を希望をノ・セ・テ

(写真) 浦嶋克己展「WAKKUNの自分カタログ」にて(ギャラリー・サーカス・サーカス)



旭化成・シドニー五輪柔道代表選手

# 篠原信一

「シドニーに舞い降りる青い龍」

上田勉 (社団法人兵庫県柔道接骨師会会長)



平成12年度の全日本柔道選手権は篠原信一選手が優勝し、見事三連覇を成し遂げました。日本武道館の青い畳の上で繰り広げられた熱い戦いの中で、神戸出身の篠原選手の堂々とした試合運びは、正に王者の風格を漂わせ他の者を圧倒しておりました。

神戸をイメージする青色で例えるならば巨大な「ブルードラゴン」が武道館を席巻した一日であったといえます。シドニー五輪での彼の健闘を祈りたいと思います。

さて、最近の世界の柔道界を見ても、「どこの国でも隆盛を極めており、フランスではサッカー、テニスに次いで2、3番めの人気スポーツであり、柔道登録人口は55万人を誇り(内80%は18歳以下)、「教育的価値の高いスポーツ」として認識され、単なる勝敗を争う競技ではなく、道徳面、人間として大切な精神面を養うことのできる価値あるスポーツとして受け入れられています。

それに比べ、本家本元の日本が20万人強しか柔道登録がないのは淋しい限りであります。少年犯罪が社会問題になっている昨今、柔道を通じ心身を鍛え正しい礼節を身につけ、篠原選手のように国の宝として大きく育ててほしいものです。

夢と感動を呼ぶ男 篠原信一選手 シドニーでも頑張れ。

(写真)平成11年11月26日篠原信一選手は兵庫県民権県知事を表敬訪問。固い握手がかわされた。

優勝

平 年 大相撲三月場  
闘 力 関

二子山部屋

# 貴闘力関

## 「幕尻からよみがえった史上初の快挙」

道上洋三 (朝日放送おはようパーソナリティ)

小さい頃から、「強きを挫き、弱きを助ける」のが好きだ。だから、巨人を負かす阪神と、横綱・曙に強い貴闘力のファンだ。

その貴闘力が、今年の春場所、こともあろうに幕尻で優勝してしまった。勿論、史上初の快挙。言わば、日本のプロ野球最下位チームがよみがえり、ワールドシリーズで優勝したようなものだ。

早速「貴闘力関・優勝おめでとう」の公開放送を、3月31日、神戸・湊川神社で行った。〆力(りき)チャンコと名付けた五百人前のチャンコ鍋を用意。早朝から駆けつけて下さった1500人のリスナーと共に、優勝の喜びにひたった。ボクはその日、貴闘力関と固く握手をかわし、その足でプロ野球開幕の横浜球場へ飛んだ。野村監督に、春場所優勝の貴闘力関の勝運を伝えるべく、手も洗わずノムさんと固い握手。貴闘力の幕尻からの優勝は、阪神に最下位からの優勝を予感させてくれた。

春は貴闘力、秋は阪神タイガースでバンザイ!!

(写真) 大相撲春場所幕内優勝した貴闘力関に、神戸市スポーツ特別賞が贈られた。3月31日神戸市を訪れ、表彰を受ける貴闘力関。



# オリックス ブルーウェーブ

「必勝祈願」



加藤隆久 (生田神社宮司)

掛まくも畏き生田神社の大前に、恐  
み恐みも白さく、大神の高き尊き  
大稜威を仰ぎ奉り、忝み奉るオリックス  
野球クラブ社長岡添裕にありては、神  
戸の市民球団として日本野球界に益々  
人気を高め行くオリックスブルーウェ  
ーブの監督仰木彬を先頭にコーチ選手  
の諸人達大前に参詣で、今年のリーグ  
優勝更に日本一を目指し、誓ひも新た  
に必勝祈願仕へ奉る状を平けく安らけ  
く聞食して、吾が大神の大御恵を蒙り  
奉りて、選手会長田口壯を始め、各も各  
も選手の諸人達には身も心も病しき事  
なく煩わしき事なく、手の躰足の躰を  
始め諸々の禍事さわりあらしめず、試  
合の場に出ては、相手球団にたじろぐ  
事なく、熱き戦ひをくりひろげ、勝ちに  
勝ち進みて、神戸市民は元より、全国  
津々浦々の後援者に、また日本一を目  
指すオリックスブルーウェーブ球団の  
栄誉を天下四方に轟かしめ給へと、恐  
み恐みも必勝祈願仕へ奉らくと白す

(写真) 1月28日、ヘナントレース開始を前に、生田神社に参拝するオリックス一行





<上>関学のシンボル、時計台 <下>OBも利用できる関西学院会館(外観とチャペル内部)

SINCE 1888

### 三輪 武

昭和29年商学部卒業  
三輪運輸工業(株)  
取締役社長  
(株)ハーテック・ミワ  
取締役社長  
神戸市中央区臨浜町2-1-16  
TEL.078-251-5002

### 岸本晃一

昭和34年法学部法律学科卒業  
(株)岸本酒造商事部  
代表取締役  
神戸市中央区波止場町2-1  
ホテルオークラ神戸内721号室  
TEL.078-391-6229

### 伊丹 威

昭和40年社会学部卒業  
(株)甲南フーズ  
代表取締役社長  
神戸市東灘区御影塚町3-3-25  
TEL.078-841-0551(代)

### 藤田久司

昭和31年法学部法律学科卒業  
(株)甲南堂印刷  
代表取締役

神戸市東灘区住吉宮町1-6-3  
TEL.078-811-3001

### 水垣宏隆

昭和39年法学部卒業  
エム・シーシー食品(株)  
代表取締役社長

神戸市東灘区深江浜町32  
TEL.078-451-1481

### 鈴木 戸

昭和47年商学部  
鈴木会計

大阪市北区豊崎  
TEL.06-6376

# 祝・関西学院創立111周年 祝・同窓会神戸支部総会開催

## 記念行事

■早稲田・慶應義塾・同志社・関西学院対校陸上競技大会

競技種目 トラック・跳躍・投擲・リレー

7月2日(日) 午前10時 於神戸市王子陸上競技場

■創立111周年記念式典

9月28日(木) 午前10時 於神戸市立王子市民ギャラリー

■創立111周年合同記念礼拝

10月19日(木) 午前10時 於上ヶ原キャンパス中央講堂

10月20日(金) 午前10時 於神戸三田キャンパス礼拝堂

<http://www.kwansei.ac.jp/>

●神戸支部総会

7月7日(金) 午後5時30分

於神戸風月堂'88(ポートアイランド)



学生NO.1に輝いた昨年の甲子園ボウル(対法政大)

## 神戸で活躍するOB企業

### 鈴木治雄

昭和16年法文学部法学科卒業

太陽鉱工(株)  
代表取締役会長

神戸市中央区磯辺通1-1-39太陽ビル  
TEL.078-231-3700(代)

### 横山吉雄

昭和26年経済学部卒業

横山倉庫(株)  
取締役社長

神戸市中央区磯上通8-1-5  
TEL.078-231-5311(代)

### 王 柏林

昭和29年経済学部卒業

(有)クレセント・インターナショナル  
取締役・相談役

神戸市中央区布引町1-1-3  
TEL.078-221-0731

学徒出陣でKG大から海軍へ、波乱に富んだ  
写真の人生、息子と共に生きる77才の幸せ

### 犬塚ゆたか

昭和19年法文学部法学科卒業

(株)いぬづか写真室  
代表取締役社長

西宮市杜家町1-1  
TEL.0798-35-6363

### 雀部昌吾

昭和27年経済学部卒業

バンドー化学(株)  
取締役会長

神戸市中央区磯上通2-2-21  
三宮グランドビル  
TEL.078-232-2923(代)

### 光葉貞男

昭和29年経済学部卒業

ゴンチャロフ製菓(株)  
取締役社長

神戸市灘区船寺通4-2-8  
TEL.078-881-1188



神戸・21世紀のグランドビジョンを考える(6)

# ボランティア、NPOが

# 支えるまちづくり

小笠原 暁  
〈宝塚NPOセンター理事長〉

橋本 明  
〈社団法人家庭養護促進協会事務局長〉



小笠原 暁さん

名古屋大学卒業。神戸商科大学教授、兵庫県教育長、兵庫県副知事、芦屋大学教授、芦屋大学長などを歴任後、現職。

震災をきっかけに、より良いまちづくりのための活動を行う市民団体が増えた。各種NPO団体の活動を支援する宝塚NPOセンターの理事長である小笠原暁さんと家庭養護促進協会で長年子どもへの福祉に取り組んできた橋本明さんに新たなコミュニティの可能性を生み出すボランティア・NPO活動について話し合っていた。

## 行政依存からの脱出

小笠原 これまでのまちづくりには国や県や市などの行政が「何かしてくれ」という意識があまりにも強かった。ところが震災を経験して何でもまかせつきりだった行政が万能でないも市民が気づいた。これからはまちづくりも福祉も、市民と行政がそれぞれの役割を考えて協力しあう時代、と頭の中を切り替えないといけませんね。

橋本 コミュニティのなかで助け合うこと、が福祉の原点です。けれどもこれまで家族で解決できない問題があると国にまかせて地域の存在が希薄になってしまっていた。地域で起った問題は地域で解決できないと安心して住める場所になっていけません。これから地域をつくっていくために、行政と企業とNPOが役割を分担し、特徴を活かして協力しあえばいいですね。

小笠原 地域での総合計画も今までは行政がつくってきたけれど、最近ようやく市民と一緒に、という雰囲気が出てきた。この雰囲気づくりが大切ですね。一方で震災のときはボランティア活動が活発でエネルギーもあった。ただそのエネルギーが最近はずいぶん小さくなってしまったように感じます。もっと継続した活動精神みたいなものが芽生えてほしいですね。

## 市民に必要とされるNPOとは

橋本 日本には8万5千のNPO団体やボランティアグループがあるといわれていますが、NPOにとっしてしっかりとした基本的な理念を持っている団体は少ないんです。大事なのは住民の声を代弁してくれて、住民に「必要」と思われる団体であることです。自分たちの活動についてビジョンなり理念をアピールする「ミッションステートメント」が必要だと思います。住民の立場からすれば「何をしているのか分からない」ような団体では困ります。また市民がその活動を見きわめる目を育てないと、本当にいいNPO、ボランティアグループは出現してきませんね。

小笠原 お互いの団体が切磋琢磨しあうようになればいいけれども、なかなか「競い合う」雰囲気が感じられないね。逆にいい活動をしているのに、資金面で苦労しているNPOも多い。自分たちの代わりをしていくれる団体を助けようという市民の意識が低いせいかな。行政の協力ももっとあってもいいと思いますよ。NPO法はできたけど、税金処理や、書類作成も大変だし、法人になったというだけであまりメリットがないような気がするし。それが共にNPOに寄付をした側にも優

## 寄付の文化が根づく地域づくり

橋本 以前に私達の団体に寄付をしてくださった方で「寄付をさせてもらってありがとう」とお礼を述べられた方がいた。寄付をすることが楽しみや喜びとなるような、寄付の文化が根付くような地域づくりができれば素晴らしいですね。アメリカではNPO法人の財政の90%が個人の寄付によって賄われているんです。つまり、自分たちの声を代弁してくれるNPOに、地域住民が寄付をする楽しみを見出ししているんです。



橋本明さん

慶応義塾大学卒業。社会福祉法人虚弱児施設グインホームで児童指導員として勤務。昭和43年からアメリカ、ヨーロッパ等で福祉の研修。昭和50年より現職。

自分のためのことしか考えていない。それが根本的な原因で、そこから変えていけないといけないね。

橋本 家庭養護促進協会の運営も8割が寄付なんです。世の中のために少しでも役立ちたいという「思い」をもっている人はたくさんいます。その人々を揺り動かせるような活動を広げていかないといけないですね。

小笠原 規模の小さなNPO団体を見ると、NPO活動そのものが生きがいとなっている人もいます。宝塚NPOセンターは民間のデイサービスも行っているんだけど、市民活動を市民が支えるようになれば、そこを拠点にボランティアが増えていく。NPOの大きな財産になっていきますよ。

## 子どもを叱れなくなった

橋本 以前に出会った高校生のボランティアがね、親に内緒で活動に参加していると話していた。ボランティアより、勉強しなさいと怒られるからだった(笑)。

小笠原 いい大学に入って、いい会社に就職して、お決まりのコースを歩んでしまいう線型が日本人の特徴だから。それ以外はみんな「はみだし人間」。

橋本 僕自身大学を卒業したとき「子どものための施設をつくる」と友人達に話したら、変わったことをするな！という意見が大半でした。でも人と違った生き方を認める自由がないとボランティア活動は根づかないですよ。現在の青少年犯罪にしても生きる選択肢の狭さがストレスとなっているのではないのでしょうか。

小笠原 現代の子は、外部との人間同士のふれあいをもつ機会があまりにも少なくて「人に喜ばれること」の発想が生まれてこない。今のうちに教育に取り込まないと大変なことになってしまいう。自分が他者から感謝される経験をもつことで社会に対する考え方も変わってくるはずですよ。

橋本 子どもを一人前に育てることはいつの時代も大変だった。平安時代からの子育ての文化を見ると、生みの親以外にも名付け親、とりあげ親、拾い

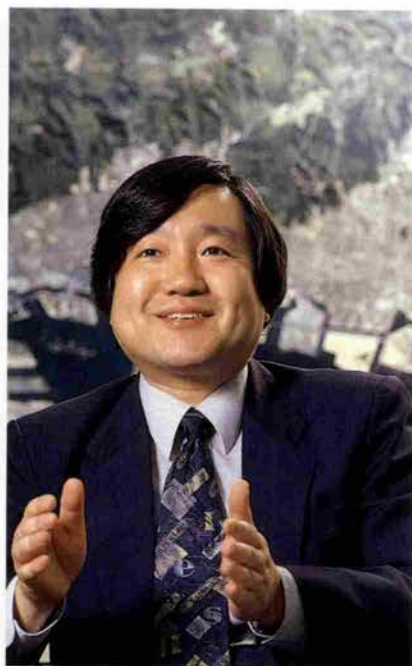
親なんていう「仮の親」がたくさんいたんです。それは地域の大人たちの子どもを見守る目がたくさんあったということですから、今ではうっかり刃物でももっていたらと思うと恐くて注意もできませんよ(笑)。

小笠原 そうそう、昔は叱れたんだけどね(笑)。親も過保護になって、よその子を叱れない社会になってしまった。地域での連帯感がなくなって本当の意味でのコミュニティがなくなってしまう。今、まずハコものばかりつくってきた行政と市民の間に生まれた溝を埋めてもう一度連帯感を生み出すことが必要だと思いますよ。それをもう1回つくり出すためにもNPOの存在が不可欠になってきますね。

橋本 NPOの活動は医療や福祉分野はもちろん、芸術文化活動や環境、教育など総合的なまちづくりができる力をもっています。社会を変えていくアイデアをNPOが出していかなければいけませんね。お金もうけ以外にも人生には大事なものがあんだよ、という生き方を地域に示せばいいですね。

〈2000年5月神戸市教育会館にて〉

【NPO (non profit organization)】とは民間の非営利組織のこと。市民生活のあらゆる分野で、主体的に自己責任において活動する市民活動団体などを指し、民間の立場で活動する組織であれば、法人格の有無を問わない。



安全で緑豊かな都市環境を生み出す

## 六甲山系 グリーンベルト整備事業

建設省近畿地方建設局

六甲砂防工事事務所長

### 山下 勝さんを訪ねて

神戸・阪神間のシンボルである六甲山。しかし、山麓の都市の発展の歴史は、土砂災害との戦いの歴史でもあった。

震災後の六甲山を防災樹林帯とする「六甲山系グリーンベルト整備事業」について、建設省近畿地方建設局の山下勝六甲砂防工事事務所長に伺った。

#### 震災後の二次災害を防ぐ 自然豊かなグリーンベルト

— 六甲山の緑が映える季節になりました。山へはよく行かれるんでしょうね。昔は趣味が山歩きだったのですが（笑）。出身が塩屋なものですから、近くの山をさまよい歩きました（笑）。

— 砂防ダムをよく見かけますが。

私も建設したものが約500、その他に林野庁や県、市で作ったものもあります。昭和13年と昭和42年の土砂災害の直後にできたものが多いですね。六甲山は、神戸・阪神間のシンボリックな存在として市民に親しまれている一方で、災害が発生しやすい山でもあります。平成7年の震災も含めて、20〜30年のサイクルで災害が起こっています。

— 震災ではどんな被害が。

直後には崖崩れなどの被害が約770か所でありました。その後の雨でさらに崩れ、現在ではその2〜3倍あるはずです。表面は緑で覆われていても、地割れができているところもあるんですよ。地震によって緩んだ地盤は大雨などによる二次災害の危険性が高くなっています。

— その対策として進めているのが「六甲山系グリーンベルト整備事業」ですね。ええ。六甲山系の南側斜面を一連の



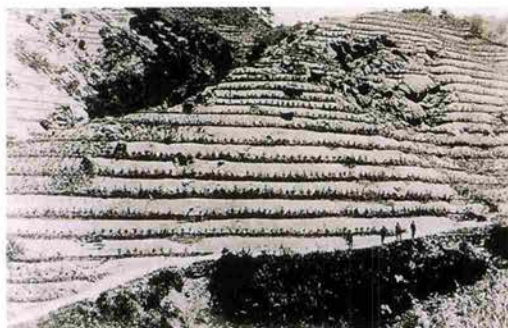
樹林帯として保全・育成し、防災緑地として整備しようと考えています。単に安全性を高めるだけではなく、緑豊かな都市環境や景観、生物の多様性の保全、無秩序な市街化防止、またレクリエーションの場の提供といったことも目標にしています。まちづくりにも寄与しようという、ちょっと欲ばった事業なんですよ（笑）。県の阪神・淡路震災復興計画（ひょうごフェニックス計画）の一翼も担っています。

#### 生態バランスを保ち育てる 多様性に富む森林への転換を

— もともと六甲山は植樹の山ですね。江戸時代に荒れ果ててしまったのを、明治以降の先人たちが植樹によつ



六甲山系グリーンベルト整備事業のイメージ



再度山の山腹工 (明治37年)  
神戸市による六甲山系初の本格的な植林事業。  
斜面を等高線に沿って階段状に切り取り、柔らかくした土の中に保水用のワラを敷き込んで苗木を植えた (写真は施行後1年目の様子)



再度山の近年の状況  
マツをはじめ、カシ、クヌギ、カエデ、ケヤキ等の多様な樹木が山を覆っている

ながつてきますね。民間でもトアロドなどで、花と緑を生かしたまちづくりが進んでいます。

私どもでも、市民参加の植樹体験教室を年に1〜2回開催しています。実際に緑に触れる機会はまだまだ少ないですから、ぜひ参加していただきたいですね。今後も、県や市、市民のみならずと協力して、緑を守り育てていきたいと思っています。早朝登山をされている方々や緑のボランティアのみなさんからも含めた、六甲山を見守るネットワークを広げていきたいですね。

—新世紀の神戸への夢はありますか。

神戸で生まれ育ちましたから、やっぱりいちばん好きな街です。今後も山と海と共存し、自然と人間がいかに仲良くありつづけるかを考えていきたい。グリーンベルトの整備は何十年単位で続けていく事業ですから、この仕事の結果が21世紀の夢につながるでしょう。確かに2002年は、神戸市による青山(六甲山)緑化事業100年に当たるはず。ワールドカップに負けないように盛り上げたいですね(笑)。

—サッカー選手に2002本の木を植えてもらうというのは(笑)。

いいですね(笑)。

て緑を甦らせた山なんです。原生林は再度山の大龍寺や摩耶山の天上寺近辺ぐらいじゃないでしょうか。ほとんどが二次林で、まだまだ緑は回復途上だといえます。

—具体的に今後どのような森づくりを。

例えば、ニセアカシアは荒れた土地にもよく育つので、砂防植栽として多く植えられました。しかし、林内では他の樹種が育ちにくく、大きく育ったものは枝折れや根返りが生じやすくなるなどの問題があるんです。他にもマツクイムシ被害林や管理されていない

人工林など、生態のバランスが崩れている森林を、種のが豊富な広葉樹林へと転換していきます。病虫害や風水害にも強い、多様性のある森林になるわけですね。

また、斜面緑地や崩壊地でも、地盤の安定化対策とともに多様で安定した生態系が育成できるような整備を併せて進めていきます。

砂防工学という分野は、大学では農学部の森林学科の中にあるんです。つまり、荒れた山に木を植えるという発想ですから、グリーンベルトは砂防の

原点なんですよ。

## 21世紀につなげたい 六甲山を見守るネットワーク

—都市環境や景観の面ではいかがですか。

街と山を併せて見ることが大切でしょうね。都市に近接し、生活にも密着した山ですから、近景だけでなく遠景にも配慮して、六甲山の景観がマンシヨンのペランダの緑にも連動するように(笑)。

—兵庫県の「花ひょうご」づくりや神戸市の「美緑化」キャンペーンともつ

ながつてきますね。民間でもトアロドなどで、花と緑を生かしたまちづくりが進んでいます。

私どもでも、市民参加の植樹体験教室を年に1〜2回開催しています。実際に緑に触れる機会はまだまだ少ないですから、ぜひ参加していただきたいですね。今後も、県や市、市民のみならずと協力して、緑を守り育てていきたいと思っています。早朝登山をされている方々や緑のボランティアのみなさんからも含めた、六甲山を見守るネットワークを広げていきたいですね。

—新世紀の神戸への夢はありますか。

神戸で生まれ育ちましたから、やっぱりいちばん好きな街です。今後も山と海と共存し、自然と人間がいかに仲良くありつづけるかを考えていきたい。グリーンベルトの整備は何十年単位で続けていく事業ですから、この仕事の結果が21世紀の夢につながるでしょう。確かに2002年は、神戸市による青山(六甲山)緑化事業100年に当たるはず。ワールドカップに負けないように盛り上げたいですね(笑)。

—サッカー選手に2002本の木を植えてもらうというのは(笑)。

いいですね(笑)。

●小室豊允 《夢対談》  
“新世紀を語る”

# 復興記念事業

## —新しいはじまり



小室豊允さん

堀内正美さん

山下彰啓助役

山下彰啓

〈神戸市助役〉

堀内正美

〈併発・神戸21世紀復興記念事業推進協議会副会長〉

小室豊允

〈姫路獨協大学学長〉

小室 来年二〇〇一年一月十七日から九月三十日まで「神戸二十一世紀復興記念事業」が行われますが、事業に込められた思いはどんなものでしょう。

山下 まずは「感謝の気持ち」です。神戸のまちは、市民ひとりひとりの懸命な努力と、地域や近隣での助け合い、国内外からの多くのご支援でここまで立ち上がってきたわけですが、新しい世紀、二〇〇一年に、これまでのご支援に対する感謝の気持ちを込めて、復興がひとつの段階にきたことをお披露目しようとするものです。「神戸からの感謝の手紙」キャンペーンを軸に、「光」と「花」のシンボル事業など市内全域でさまざまなイベントプログラムを展開、また、神戸らしさを再発見する事業や、子どもたちの夢を育む事業などを、市民をはじめ事業者や市と一緒に

世紀の神戸のまちづくりにつなげていきたいと思っています。今までは、総合プロデューサーがいてイベントを取りしきるといふ形が多かったですが、今回はいろいろな人が係わって、様々な企画を自由にやっていたり、市民主体の取り組みがあります。そんな市民主体の取り組みが将来のまちづくりに生きるだろうと思っています。

小室 コンセプトのひとつは「光」。これは、あの震災で、長い時間闇のなかで食べるものもない生活をした我々神戸市民でないと、「光のありがたさ」というのはなかなか分らないですね。

山下 神戸の「光」というと「六甲山からの一千万ドルの夜景」が有名ですが、今、神戸市民が「光」というときには、気持ちの癒しというものが係わってきますね。ルミナリエも、そういう気持ちで見ると心に響いてきます。

小室 「闇の後ろの光」ということでしようね。二つめのコンセプトは「花」。

山下 「海の青、山の緑」と、神戸はとも色どりが鮮やかな土地です。以前から「グリーン作戦」をやっていますが、地震以後、街を歩いてみると、空き地に花を植えているところが多く目につきました。これは瓦礫の街をきれいにして花を咲かせようという市民の活動だったのでしよう。淡路花博は、

世界的な博覧会として大きなものですが、そういう特別なものはまたあった、花いっぱい街にしたいという願いです。

小室 震災直後、余震がおさまったとき街へ出ましたら、花屋さんの前に「たくさんの方が亡くなりました。どうぞご自由にこの花を持って帰って、お供えください」と、花屋さんの善意が置いてあったんです。人間の心と花というものが、こういう形につながっているんだなあと、とても印象深かったですね。インフォオラータという花のイベントも開かれています。花を愛でるだけではなく、復興への感謝をこめて、というものなんですよ。

山下 プロが花を植えるのではなくて、みなさんが参加して花を育てる。自分の家で作った花を、自分の家だけで見るのではなくて、扉の外に出してみたい。小室 作家宮本輝の代表作に神戸を舞台にした『花の降る午後』があります。神戸と花、というのはなにか特別なつながりがあるそうですね。

堀内 神戸は坂のあるまちで、太陽の光線がじかにあたり、また海からの反射の光があります。下からの光はシワを消すといいますが(笑)、上と下からの光によって、人が美しく見えるんで

す。「ファッション都市神戸」の要因は、クリエイティブなファッション性もありますが、「人物を美しく見せる街」でもあるんですね。

## 緑の大切さを再確認した震災

堀内 私は十八年前に神戸に来たのですが、当り前だった六甲山の緑は、百年前の人々が山の岩肌を緑化したのだと聞いて、大変驚きました。先人たち



神戸21世紀復興記念事業のシンボルマークを背にして

はすばらしいものを私たちに残していつてくれた、神戸はとても歴史のある街なんだとつくづく感じましたね。

小室 震災前、地価が高いのになぜ公園を造るのだと言う人がいましたが、あの火事するとき、緑のある公園によって火が防がれていたんですね。緑の大切さを、改めて教えられました。

堀内 そして震災では、多くのビルが倒れましたが、木はどんなに細いものでも倒れずに、今まで上へ上へという思考で来た私たちに、「ちゃんとして根を張れよ」と教えてくれましたね。

小室 記念事業のひとつに「小学校の校庭に芝生を植えよう」がありましたね。

堀内 六甲山の緑は、先人たちからのプレゼントです。私たちが百年後の市民に、なにかプレゼントができないかと、夢プランを一般に募集したところ、校庭を芝生にできないかという提案がありました。震災のときにそこに集まり、雨を凌いで、守ってくれた学校、地域のコミュニティスペースである学校を、自分の手で芝生にしようというものです。当たり前の子供たちが駆けまわって遊べるように、少しずつ、ひとつずつ、緑を多くしていきたい。大きなことができなくても、二〇〇二年以降につながる事業にしたいです。

## ホスピタリティあふれる都市に

小室 「神戸からの感謝の手紙」運動が広がっていますね。

堀内 感謝の手紙運動は、記念事業を支えるところのキャンペーンなのです。

震災の時間お世話になった方に、あらためて「ありがとう」を発信し、二十一世紀の神戸で、心のこもったおもてなしで再会できればと思っています。この運動には、タクシーやクリーニング業界の人たちも賛同してくださっていますし、有珠山噴火で被災された方を励まそうという取り組みも、神戸からの想いを結びつなぐものなのです。

有珠山で被災された方へのはげましのメッセージボードを置いたところ、約六千通集まり、それを持って有珠山の避難所を訪ねました。ここでは、行政はさまざまな情報収集や全体把握を、そして市民ボランティアは、個別のニーズを拾い上げ補っていました。震災のときは、肩書や所属は関係なしに、皆で助け合いました。あの関係をもういちど思い出したいですね。行政と、企業、個人の仕事はそれぞれですが、情報開示、情報公開をすることによってお互いを補い合う。「神戸に生まれてよかった」「神戸に住みたい」という思いはひとつなのですから。

小室 また、震災の時は全国各地からたくさんの方が応援に駆けつけてくださり、とても嬉しかったですね。神戸が21世紀にむけて、「集客コンベンション都市」とするにあたり、「ホスピタリティ」というものを見直したい。世界のリゾート、コンベンション都市を見ると、「ホスピタリティ」が必ずあります。「来てくれてありがとう」という気持ちです。多くの資産を奪っていった震災ですが、我々にこの気持ちを教えてくれたのは大きいですね。

堀内 市民、観光客が気軽に声を掛け合えて、来られた方がほっとできる神戸になればいいですね。

小室 神戸が掲げる医療産業都市構想ですが、「病院」は「ホスピタル」で「ホスピタリティのあるところ」という意味で、これもつながりがあるんですね。山下 あの震災で私たちは、やさしさやおもいやりが人の心にどれほど響くものかを実感したと思うのです。「また行ってみよう」と感じるのは、風景など街の魅力に加えて、あの人にまた会いたいという気持ちが大いいのではないのでしょうか。「何度も訪れたい」と思える街になるよう、市民一人ひとりがもてなしの心で神戸に來られた方々をお迎えする、ホスピタリティあふれるまち神戸を実現していきたいですね。

神戸の詩

# 神戸の女

岡本真穂・詩

好井信子・画

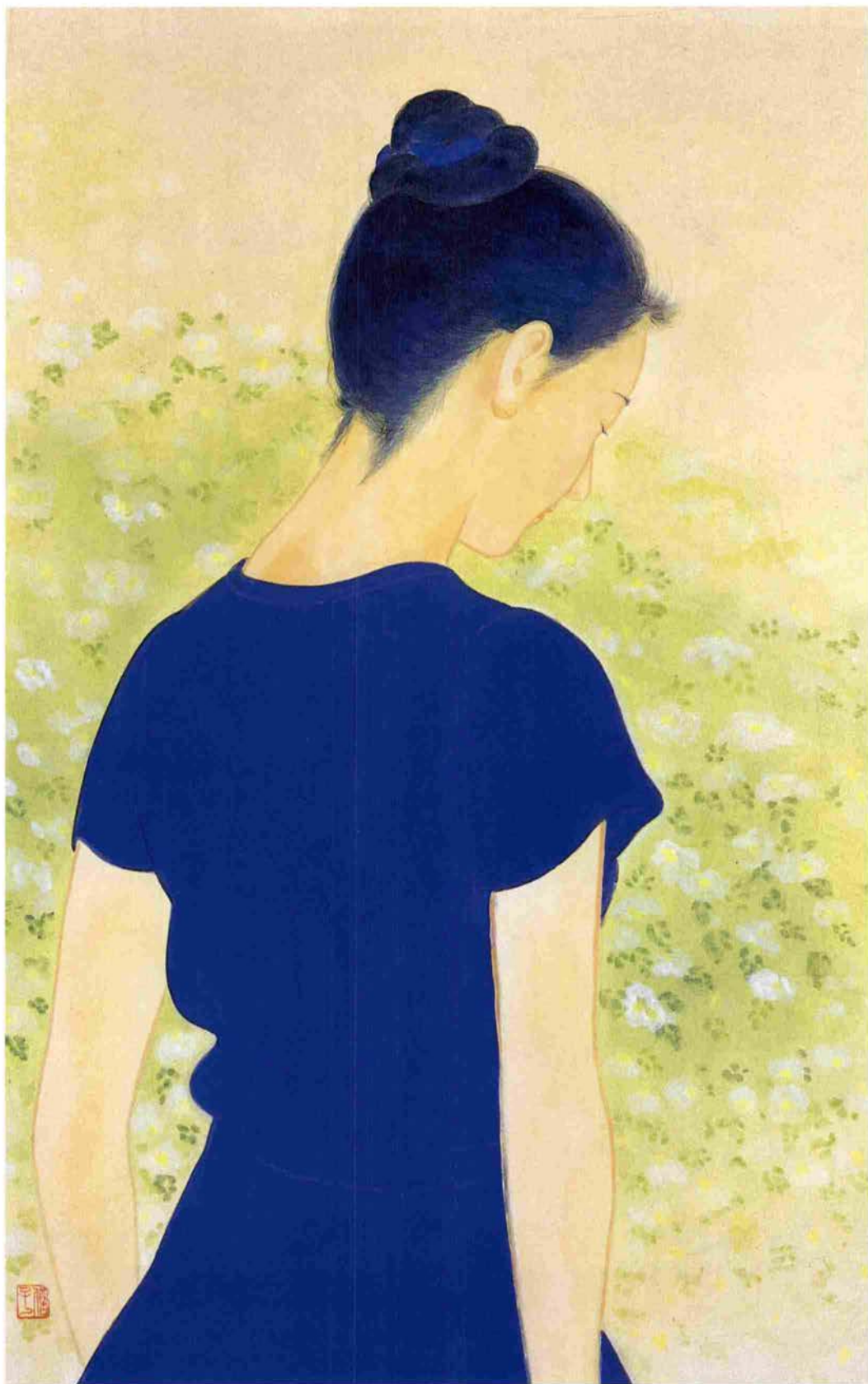
神戸の女は 白

神戸の女は 碧<sup>あお</sup>

そして

神戸の女は 炎





## 神戸のお嬢さん

フラワープリンセスひょうご2000

# 愛くるしい花の笑顔で



兵庫県公館にて 撮影/米田定藏

田中かおりさん (フラワープリンセスひょうご2000)

成川友紀子さん (代表フラワープリンセスひょうご2000)

平島久美子さん (フラワープリンセスひょうご2000)



推薦者 中西省伍

株式会社サロンド・モード中西代表取締役

ジャパンフローラ2000にふさわしい兵庫県のフラワープリンセスが決まりました。

最初から審査の栄を受けているボクとしては、年々応募のお嬢さんがすばらしくなってきたのは喜ばしいことです。

今年は花博会場での最終審査だったので、全員素敵な方ばかりで、審査員一同、苦渋の選択で次の方々を選出しました。成川友紀子さん(21)平島久美子さん(21)田中かおりさん(25)どこへ出しても恥ずかしくない美女ばかりです。

兵庫県の顔として大いに活躍されるでしょうことを期待しています。

頑張ってください。

## 神戸のお嬢さん

パールプリンセス2000

# 真珠のような輝きと知性を

向井さやかさん (パールプリンセス2000)

黒川真三子さん (代表パールプリンセス2000)

飯野 牧さん (パールプリンセス2000)



ホテルオークラ神戸にて 撮影/米田英男

5月18日、ホテルオークラ神戸に於いてパールフェスタ2000が催されましたが、本年は回を重ねること20回目を迎え、この記念すべき年にパールプリンセス2000が誕生しました。1078名の応募者の中から選ばれた3名は、いずれも真珠のような美しい輝きと知性を合わせ持つ魅力的なお嬢様方で、宝石のプロでもある代表の黒川さん、北京語・英語が堪能で国際感覚溢れる飯野さん、ピアノとスノーボードが得意なお向井さん、それぞれ素晴らしいキャラクターの持ち主です。これから1年間、大勢の皆さんに真珠を愛していただけるようPRのため、海外に出向いたり国内で活躍していただきます。



推薦者 御木本豊彦

パールプロモーション委員長  
株式会社ミキト取締役社長